

2015 年 IEEE 関西支部 総会資料

2015 年 2 月 10 日
IEEE 関西支部

改訂履歴

2015年2月11日 p.7 MTTTS の Secretary として平塚氏を追加
p.16 第 83 回技術講演会のテーマ名を訂正

総会資料目次

2015 年 IEEE 関西支部総会 プログラム	1
I. 2015 年関西支部役員・理事	2
II. 2015 年 KANSAI CHAPTER 役員	6
III. 2015 年関西支部 STUDENT BRANCH 役員	8
IV. 2014 年 活動報告	10
V. 関西支部会員数	31
VI. 2015 年 活動計画	35
VII. 2014 年 会計報告	43
VIII. 2015 年 予算 (案)	44
IX. 関西支部 BYLAWS の修正	46
X. 受賞者	47
XI. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS	48

2015 年 IEEE 関西支部総会 プログラム

1. 日時：2015 年 2 月 10 日（火）15 時 00 分～17 時 30 分
2. 場所：キャンパスプラザ京都4F 第3講義室
京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 939
3. 総会スケジュール
 1. 支部長挨拶
 2. 役員・理事紹介
 3. 2014 年活動報告および 2015 年活動計画
 4. 2014 年会計報告および 2015 年予算案
 5. 関西支部 BYLAWS の修正について
 6. Chapter 役員および活動紹介
<休憩>
 7. IEEE 関西支部 Young Professionals 賞授賞式
 8. IEEE 関西支部学生研究奨励賞授賞式
 9. IEEE 関西支部メダル授賞式
 10. IEEE 関西支部新 Fellow 紹介及び研究紹介
 11. 閉会の挨拶

I. 2015 年関西支部役員・理事

1. 役員 (Section Officers)

Chair:	山内 寛紀	(立命館大学)
Vice Chair:	種谷 元隆	(シャープ)
Secretary/Treasurer:	高森 信之	(シャープ)

2. 理事 (Committee Chairs)

MDC Chair:	福井 正博	(立命館大学)
NC Chair:	杉江 俊治	(京都大学)
SAC Chair:	川村 新	(大阪大学)
TPC Chair:	程 俊	(同志社大学)
AC Chair:	土屋 達弘	(大阪大学)
COC Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)

3. 理事 (Affinity Group Chairs)

LMAG Chair:	橋本 正弘	(元大阪電気通信大学)
WIE AG Chair:	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
YP AG Chair:	熊木 武志	(立命館大学)

4. 理事 (Past Officers)

Past Chair:	小野寺 秀俊	(京都大学)
Past Vice Chair:	上田 修功	(日本電信電話)
Past Secretary:	山田 武士	(日本電信電話)
Past Treasurer:	須山 敬之	(ATR)

5. 理事 (Past Committee Chairs)

Past MDC Chair:	小倉 武	(立命館大学)
Past TPC Chair:	田邊 信二	(三菱電機)
Past AC Chair	楠本 真二	(大阪大学)
Past COC Chair	尾上 孝雄	(大阪大学)

6. Committee Officers

a. Membership Development Committee

Chair:	福井 正博	(立命館大学)
Secretary:	谷口 一徹	(立命館大学)
Member:	勅使川原 正樹	(オムロン)
	中村 孝夫	(住友電気工業)
	勝山 豊	(大阪府立大学)
	浅井 明	(パナソニック)
	村松 純	(日本電信電話)
	宮本 雅之	(シャープ)
	佐々木 鉄雄	(関西電力)
	貝原 俊也	(神戸大学)
	太田 快人	(京都大学)
	小林 浩	(三菱電機)
	岡 育生	(大阪市立大学)
	橘 達弘	(ルネサス エレクトロニクス)
	木村 啓明	(ローム)
	棚橋 成夫	(京セラ)
	加藤 貴敏	(村田製作所)
	柏 卓夫	(古野電気)
	ペパー フェルナンド	(情報通信研究機構)

b. Nominations Committee

Chair:	杉江 俊治	(京都大学)
Member:	浅田 稔	(大阪大学)
	大村 泰久	(関西大学)
	杉浦 博明	(三菱電機)

c. Student Activities Committee

Chair:	川村 新	(大阪大学)
Member:	松田 崇弘	(大阪大学)
	石原 亨	(京都大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	間 博人	(同志社大学)
	市川 晃平	(奈良先端科学技術大学院大学)
	磯川 悌次郎	(兵庫県立大学)

	福水 洋平	(立命館大学)
	平田 孝志	(関西大学)
	奥 宏史	(大阪工業大学)
	澤田 祐一	(京都工芸繊維大学)
(Student Representative)	別所 宏晃	(関西大学)

d. Technical Program Committee

Chair:	程 俊	(同志社大学)
Vice Chair:	田邊 信二	(三菱電機)
Secretary:	路 姍	(同志社大学)

e. Awards Committee

Chair:	土屋 達弘	(大阪大学)
Member:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	太田 能	(神戸大学)
	太田 正哉	(大阪府立大学)
	大橋 正治	(大阪府立大学)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	杉原 浩平	(三菱電機)
	杉山 久佳	(大阪市立大学)
	中村 匡秀	(神戸大学)
	野口 拓	(立命館大学)
	村田 英一	(京都大学)
	山田 晃久	(シャープ)
	杉原 英治	(大阪大学)
	増淵 泉	(神戸大学)
	和田 友孝	(関西大学)

f. Chapter Operations Committee

Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
Secretary:	西浦 敬信	(立命館大学)
Member:	浦岡 行治	(奈良先端科学技術大学院大学)
	日高 秀人	(ルネサス エレクトロニクス)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)

多賀 登喜雄	(関西学院大学)
岡田 実	(奈良先端科学技術大学院大学)
南出 英明	(三菱電機)
石崎 俊雄	(龍谷大学)
杉立 厚志	(三菱電機)
河原 達也	(京都大学)
坂本 直史	(ルネサス ソリューションズ)
萩原 朋道	(京都大学)
大森 英樹	(大阪工業大学)

g. Life Members Affinity Group

Chair:	橋本 正弘	(元大阪電気通信大学)
Vice Chair:	木戸出 正継	(元奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary:	小林 正明	(元三菱電機)

h. WIE (Women in Engineering) Affinity Group

Chair:	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair	荒木 章子	(日本電信電話)
Vice Chair	上田 悦子	(奈良工業高等専門学校)
Secretary	柳川 由紀子	(オムロン)
Treasurer	大崎 美穂	(同志社大学)

i. YP (Young Professionals) Affinity Group

Chair:	熊木 武志	(立命館大学)
Vice Chair	和泉 慎太郎	(神戸大学)
Secretary	石田 哲也	(ウェーブテクノロジー)
Treasurer	佐藤 伸吾	(関西大学)

II. 2015 年 Kansai Chapter 役員

1. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

Chair:	浦岡 行治	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	中村 孝	(ローム)
Secretary:	前元 利彦	(大阪工業大学)
Treasurer:	中原 健	(ローム)

2. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

Chair:	日高 秀人	(ルネサス エレクトロニクス)
Vice Chair:	永田 真	(神戸大学)
Secretary:	廣瀬 哲也	(神戸大学)
Treasurer:	甲斐 康司	(パナソニック)

3. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
Vice Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Secretary:	越智 裕之	(立命館大学)
Treasurer:	鳥飼 弘幸	(京都産業大学)

4. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

Chair:	多賀 登喜雄	(関西学院大学)
Vice Chair:	前川 泰之	(大阪電気通信大学)
Secretary:	山口 聡	(三菱電機)
Treasurer:	阪本 卓也	(京都大学)

5. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

Chair:	岡田 実	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	熊澤 宏之	(大阪産業大学)
Secretary:	熊本 和夫	(大阪工業大学)
Treasurer:	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)

6. CS (Computer Society) Kansai Chapter

Chair:	南出 英明	(三菱電機)
Vice Chair:	井上 昭彦	(パナソニック)
Vice Chair:	山下 茂	(立命館大学)
Secretary:	松島 秀樹	(パナソニック)
Treasurer:	廣本 正之	(京都大学)

7. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

Chair:	石崎 俊雄	(龍谷大学)
Vice Chair:	柏 卓夫	(古野電気)
Secretary:	張 陽軍	(龍谷大学)
Secretary:	平塚 敏朗	(村田製作所)
Treasurer:	三谷 友彦	(京都大学)

8. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

Chair:	杉立 厚志	(三菱電機)
Vice Chair:	裏 升吾	(京都工芸繊維大学)
Secretary:	加藤 友章	(日本電気)
Treasurer:	村田 博司	(大阪大学)

9. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
Vice Chair:	河原 達也	(京都大学)
Secretary:	平林 晃	(立命館大学)
Treasurer:	木下 慶介	(日本電信電話)

10. CES (Consumer Electronics Society) West Japan Joint Chapter

Chair:	坂本 直史	(ルネサス ソリューションズ)
Vice Chair:	後藤 富朗	(名古屋工業大学)
Secretary:	山口 真悟	(山口大学)
Treasurer:	長谷 智弘	(龍谷大学)

11. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	萩原 朋道	(京都大学)
Vice Chair:	藤崎 泰正	(大阪大学)
Secretary:	蛭原 義雄	(京都大学)
Treasurer:	加嶋 健司	(京都大学)

12. IES (Industrial Electronics Society) All Japan Joint Chapter

Chair:	大森 英樹	(大阪工業大学)
Vice Chair:	三浦 友史	(大阪大学)
Secretary:	川畑 良尚	(立命館大学)
Treasurer:	柿ヶ野 浩明	(立命館大学)

III. 2015年関西支部 Student Branch 役員

1. 大阪大学 (<http://www.ise2.ist.osaka-u.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Mentor:	渡邊 賢治	(シンセシス)
Chair:	富田 幸佑	大阪大学大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Vice Chair:	廣川 綜一	大阪大学大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Treasurer:	鵜川 翔平	大阪大学大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Secretary:	増田 豊	大阪大学大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻

2. 京都大学 (<http://ieee.kuee.kyoto-u.ac.jp/>)

Counselor:	小野寺 秀俊	(京都大学)
Mentor:	近村 啓史	(フィックスターズ)
Chair:	岡崎 剛	京都大学 情報学研究科
Vice Chair:	奥村 成皓	京都大学 情報学研究科
Treasurer:	秋山 大地	京都大学 工学部電気電子工学科
Secretary:	高垣 勇登	京都大学 工学部電気電子工学科

3. 立命館大学 (<http://www.ieee.se.ritsumei.ac.jp/J/main.html>)

Counselor:	福水 洋平	(立命館大学)
Mentor:	川上 善之	(松下電器産業)
Mentor:	多田 章	(ルネサス テクノロジー)
Chair:	杉山 幸平	立命館大学 理工学研究科電子システムコース
Vice Chair:	人見 達郎	立命館大学 理工学研究科電子システムコース
Treasurer:	大西 洋平	立命館大学 理工学研究科電子システムコース
Treasurer:	高井 俊輔	立命館大学 理工学研究科電子システムコース
Secretary:	荒木 康之	立命館大学 理工学研究科電子システムコース

4. 奈良先端科学技術大学院大学 (http://se.naist.jp/sb/index_ja.html)

Counselor:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
Mentor:	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
Chair:	中川 尊雄	奈良先端科学技術大学院大学
Vice Chair:	藤原 賢二	奈良先端科学技術大学院大学
	Passakorn	
Treasurer:	Phannachita	奈良先端科学技術大学院大学
Secretary:	藤原 雄介	奈良先端科学技術大学院大学

5. 兵庫県立大学 (<http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/IEEEStudent/index.html>)

Counselor:	畑 豊	(兵庫県立大学)
Mentor:	中嶋 宏	(オムロン)
Chair:	菊池 翔	兵庫県立大学大学院
Vice Chair:	藤澤 徹也	兵庫県立大学大学院
Web-Master	多田 翔平	兵庫県立大学大学院
Treasurer:	樋口 翔士	兵庫県立大学大学院
Secretary:	盛田 健人	兵庫県立大学大学院

6. 関西大学 (http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee_sb/)

Counselor:	大村 泰久	(関西大学)
Mentor:	小宮 健治	(シャープ)
Mentor:	辻川 剛範	(日本電気)
Chair:	別所 宏晃	関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻
Vice Chair:	三木 達也	関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻
Treasurer:	呂 鴻飛	関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻
Secretary:	河内 智史	関西大学大学院 理工学研究科 システム理工学専攻

7. 同志社大学 (<https://ccilab.doshisha.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	高橋 康人	(同志社大学)
Chair:	小林 尚貴	同志社大学大学院 理工学研究科 電気電子工学専攻
Vice Chair:	落合 翼	同志社大学大学院 理工学研究科 情報工学専攻
Treasurer:	下谷 遼資	同志社大学大学院 理工学研究科 電気電子工学専攻
Secretary:	田中 雅也	同志社大学大学院 理工学研究科 電気電子工学専攻
Secretary:	和田 理	同志社大学大学院 理工学研究科 情報工学専攻

IV. 2014 年 活動報告

1. 総括

2014 年度、関西支部では 2 件のマイルストーンが認定され、それぞれ成功裏に式典を実施した。また、シニアメンバーへの昇格推進を強化し、昇格者は昨年からはほぼ倍増した。Chapter の Section 傘下への移行に伴う Joint Chapter 化、関西支部を幹事支部とする Chapter 数の増加も順調に進んだ。また、LMAG に続く、WIE、YP の各 Affinity Group の設立がそれぞれ承認され、関西支部の活動は、ますます拡大、充実しつつある。

2. 総会

2014 年 2 月 17 日(月)に京都テルサ東館2階中会議室において、2014 年総会を開催した。各 Committee、Chapter、Affinity Group からの報告、GOLD 賞授賞式、学生研究奨励賞授賞式、関西支部メダル授与式、新フェロー紹介を実施した。参加者は 52 名。



GOLD 賞受賞者



学生研究奨励賞受賞者

3. 理事会

- 第 1 回理事会 1 月 17 日 キャンパスプラザ京都 出席者:12 名
・2014 年活動計画 ・2014 年各 Committee の活動計画 ・2014 年予算(案)
- 第 2 回理事会 2 月 17 日 京都テルサ 出席者:13 名
・2014 年総会について
- 第 3 回理事会 5 月 09 日 キャンパスプラザ京都 出席者:10 名
・支部メダル授与規定改正 ・支部役員選出について ・R10 総会報告 ・2014 年第 1 回 JC 理事会報告 ・MDC/SAC 合同 Meeting 報告 IEEE マイルストーン贈呈式(4 月 12 日)開催報告 ・IEEE 関西支部 Young Professionals 賞規定の改定
- 第 4 回理事会 7 月 1 日 キャンパスプラザ京都 出席者:13 名
・Young Professionals Affinity Group 設立申請について ・IEEE マイルストーン贈呈式(6 月 10 日)開催報告・2014 年第 1 回 JC COC Meeting 報告
- 第 5 回理事会 9 月 5 日 キャンパスプラザ京都 出席者:12 名
・2015-2016 年度の役員・理事候補について ・関西支部 YP 賞、学生奨励賞募集について
・YP AG 設立準備状況について ・WIE AG キックオフイベントについて・2014 年第 2 回

JC 理事会報告・Sections Congress 2014 報告・関西支部会計報告

- 第 6 回理事会 12 月 19 日 キャンパスプラザ京都 出席者:23 名
 - ・2015-2016 年度の理事会体制について ・関西支部 YP 賞、学生奨励賞審議・2014 年第 3 回 JC 理事会報告・その他報告

4. 関西支部主催講演会

TPC および LMAG の企画により以下に示す計 6 回の IEEE 関西支部主催による技術講演会を開催した。講演者等の詳細は [11-d. Technical Program Committee](#) 報告の項を参照のこと。

- ・ 第 79 回(3 月 28 日) EC 役員の経験から国際標準について思うこと
- ・ 第 80 回(6 月 27 日)スーパーコンピュータ「京」 そのアーキテクチャとアプリケーション
- ・ 第 81 回(6 月 10 日)液晶ディスプレイのテレビへの適用の歴史
- ・ 第 82 回(6 月 12 日)Multiple-Access in Large MIMO Systems
- ・ 第 83 回(9 月 9 日)関西空港 ー医薬品輸送のオンリーワン空港と気象レーダ技術ー
- ・ 第 84 回(11 月 29 日)未来を拓く産業科学のシーズ創出



第 80 回 スーパーコンピュータ「京」



第 83 回技術講演会参加者

5. IEEE マイルストーン

関西支部から推薦した以下の 2 件が IEEE マイルストーンに認定され、それぞれ、認定式典 (dedication ceremony) が開催された。

- ・ Birth and Growth of Primary and Secondary Battery Industries in Japan, 1893 (一次・二次電池産業の誕生と成長)
 - ・ 対象企業・団体：屋井乾電池、GS ユアサ、パナソニック
 - ・ Proposal Form 提出：2013 年 5 月 27 日、History Committee 承認：2013 年 10 月 14 日、Board of Directors による最終承認：2014 年 1 月 21 日
 - ・ 2014 年 4 月 12 日、クラブ関西にて認定式典、記念講演会、記念パーティーを開催
 - ・ IEEE Past President の Peter Staecker 氏より、GS ユアサ、パナソニック、長岡市、東京理科大が銘板 (Plaque) を受領 (長岡市、東京理科大は、現存しない屋井乾電池に代わって受領)
 - ・ 全体で 138 件目、日本で 19 件目、関西支部で 5 件目
- ・ Sharp 14-inch Thin-Film-Transistor Liquid-Crystal Display (TFT-LCD) for TV, 1988

(テレビ用 14 インチ TFT 液晶ディスプレイ)

- ・ 対象企業・団体：シャープ
- ・ Proposal Form 提出：2013 年 2 月 15 日、History Committee 承認：2013 年 8 月 14 日、Board of Directors による最終承認：2014 年 1 月 21 日
- ・ 2014 年 6 月 10 日、ホテルグランヴィア大阪にて贈呈式、記念パーティー、記念技術講演会を開催
- ・ IEEE President-Elect の Howard Michel 氏より、シャープが銘板 (Plaque) を受領
- ・ 全体で 142 件目、日本で 21 件目、関西支部で 6 件目
- ・ 前日の 2014 年 6 月 9 日に、IEEE President-Elect の Howard Michel 氏との意見交換会を実施。



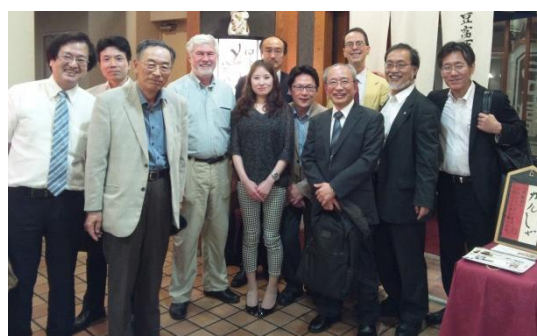
一次・二次電池産業の誕生と成長



テレビ用 14 インチ TFT 液晶ディスプレイ



認定記念技術講演会 (6 月 10 日)



意見交換会の出席者 (6 月 9 日)

6. 新組織の設立・変更等

- ・ Kansai Section Consumer Electronics Society Chapter の Kansai/Nagoya/Hiroshima/Shikoku/Fukuoka Joint Section Consumer Electronics Society Chapter (West Japan Joint Chapter) への再編が正式承認(1 月 8 日)
- ・ Kansai Section Women in Engineering Affinity Group の設立が正式承認(1 月 20 日)
- ・ Japan Council Industrial Electronics Society Chapter の Kansai/Sapporo/Sendai/Shin-Etsu/Tokyo/Nagoya/Hiroshima/Shikoku/Fukuoka Joint Section Industrial Electronics Society Chapter (Industrial Electronics Society All Japan Joint Chapter) への再編が正式承認(6 月 3 日)

- Kansai Section Antenna and Propagation Society Chapter の Kansai/Hiroshima/Shikoku Joint Section Antenna and Propagation Society Chapter への再編が正式承認(8月12日)
- Kansai Section Young Professional Affinity Group の設立が正式承認(9月23日)

7. Region 10 Meeting

2014年3月1日(土)～2日(日)の日程でマレーシアのボルネオ島クチンにて開催された Region 10 Meeting には、関西支部より小野寺 Chair が参加し、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努めた。

8. Sections Congress

2014年8月22日(金)～24日(日)の日程でアムステルダムにて開催された Sections Congress と、それに先立つ Region 10 Annual General Meeting に関西支部から小野寺 Chair、上田 Vice Chair が参加し、各 Region/Section から寄せられた Recommendations などについて議論した。

9. 協賛会議

- The 2014 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK2014)
 主催:IEEE EDS Kansai Chapter
 日時:2014年6月19日(木)～20日(金)
 場所:龍谷大学 アバンティ響都ホール
- NEDIA 電子デバイスフォーラム京都
 主催:NEDIA (一般社団法人日本電子デバイス産業協会), 共催:リードエグジビションジャパン, 特別協力:産業タイムズ社
 日時:2014年10月30日(木)10:00～10月31日(金)
 場所:京都リサーチパーク(KRP)
- 第29回信号処理シンポジウムプレイベント「企業の最前線で生きる信号処理技術」
 主催:電子情報通信学会 信号処理研究会
 日時:2014年11月11日(火)
 場所:立命館大学朱雀キャンパス ホール
- 平成26年電気関係学会関西連合大会
 主催:電子情報通信学会、電気学会、照明学会、映像情報メディア学会、電気設備学会の各関西支部
 日時:2014年11月23日(日)～24日(月)
 場所:奈良先端科学技術大学院大学

10. 情報発信

関西支部 Web ページ

Japan Council のサーバに設置されている下記ホームページで、技術講演会の案内、マイルストーン認定式典の報告など、タイムリーに情報発信した。また、トップページにてスライドショー形式による最近のイベント等の写真の表示、ドロップダウン形式のメニューの導入など、利便性を向上させた。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、Fellow 推薦等の案内に関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れた。

Newsletter の発行

- ・ No.26(2014年5月11日発行):総会の様子や GOLD 賞、学生研究奨励賞の受賞者紹介をはじめ、関西支部に関する情報を提供。
- ・ No.27(2014年9月30日発行):2015/2016年関西支部役員および理事候補者公告、2014年IEEE関西支部 Young Professionals 賞および学生研究奨励賞の募集をはじめ、関西支部に関する情報を提供。

11. 各 Committee/Affinity Group からの報告

a. Membership Development Committee

2014年は、4月24日に今年1回目のMDC & SAC Joint workshopを開催し、第2回目はMDC, SAC & YP Joint workshopとして11月25日に開催した。主にMDC、及びSACに参加している委員の組織を通して、IEEE活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズに行わせるとともに、正会員からシニアへの移行を推進した。また、SACと連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れた。

2015年1月28日現在、会員数は2,307名となった。大幅な円安による会費の上昇、昨今の大学や産業界を取り巻く状況の変化にもかかわらず昨年度同時期(2,335名)とほぼ同等の会員数であり今後の増加に繋がる様活動を行う。

シニアメンバーへのアップグレードを推進することを活動の中心としてアップグレードのためのスキームを構築し、その確認としてMDCのメンバーがシニアになったことを確認した。その後にMDCやSACに関係のある会員を中心にスキームを用いてシニアへのアップグレードを促し2014年の昇格者が15名となった。

学会や研究会でIEEEの宣伝を行うために、ポスター、パンフレット、及びボールペンを300セット程度入手し、各委員に配布した。

各委員の組織における会員状況を定期的に配布し、会員数増加のための資料とした。学生の卒業時、及び6月にrenewを促すためのメールを、メーリングリストを通して全会員に対して送付した。

会員になるための手続き、及び送金について日本国内でも、より簡単に行えるような仕組みにするための検討を行っていく。MDC & SACに委員を出していない、会員数が多い組織に声をかけ、新

たに委員を増やすことで会員数の増加を狙う。

b. Nominations Committee

2014年3月1日締め切りの2015年 Fellow Nomination に際し、関西支部から数名の Fellow 推薦を行なった。

2016年 Fellow Nomination に関して、関西支部内の現 Fellow に対し新 Fellow の推薦を依頼することとした。

c. Student Activities Committee

SAC では、昨年に引き続き、学生会員の増強、学生会員の活動支援、等の活動を行ってきた。

- (1) 既存7大学(大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学)の Student Branch (SB)を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、SB 間の情報交換の促進、等の活動を行った。また、各 SB の Chair を集め4月10日に SB Chair Meeting を開催し、前期の活動状況や今後の活動計画について議論を行った。
- (2) MDC と SAC と合同で Workshop を開催(4月, 11月)し、連携して会員の増強、YP 会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。
- (3) Student Branch (SB)による自主的な活動としては、昨年までと同様に7大学合同で関西支部 Student Branch 交流会を12月20日に関西大学にて開催した。また、立命館大学 SB で例年主催している English Presentation Competition を10月31日に、関西支部の他の SB からの参加者も含めて実施した。優秀発表者に IEEE 関西支部 SAC から表彰状を授与した。
- (4) 関西大学において10月17日および18日に開催された JC-SAC 主催の IEEE 学生ブランチリーダーシップトレーニングワークショップを関西大学 SB を中心に運営した。
- (5) AC と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。詳細は [11-e](#). Award Committee 報告の項を参照のこと。

d. Technical Program Committee

以下の表に示す計 6 回の技術講演会を実施した。(*登録順のため第 80 回の開催日 6/27 が第 81 回 6/10、第 82 回 6/12 と前後している)。

	日時	場所	講演者	参加者数 (IEEE 会員)	共催・協賛組織名
第 79 回	2014 年 3 月 28 日	テーマ: EC 役員の経験から国際標準について思うこと			
		三菱電機(株)先端技術総合研究所IS棟 12 会議室	日立製作所研究開発本部 技師長 藤澤弘道氏 (IEEE Fellow)	29(19)	
第 80 回	2014 年 6 月 27 日	テーマ: スーパーコンピュータ「京」そのアーキテクチャとアプリケーション			
		独立法人 理化学研究所 計算科学研究機構	理化学研究所 計算科学研究機構 統括役 井上愛一郎氏 理化学研究所 計算科学研究機構総務課長 串田幸彦氏	35(19)	IEEE Kansai LMAG
第 81 回	2014 年 6 月 10 日	テーマ: 液晶ディスプレイのテレビへの適用の歴史			
		ホテルグランヴィア大阪20F 鳳凰の間	tech&NT Labs 武宏氏 Outreach Historian IEEE History Center Dr. Alexander B. Magoun シャープ(株) 代表取締役副社長 水嶋繁光氏	32(19)	
第 82 回	2014 年 6 月 12 日	テーマ: Multiple-Access in Large MIMO Systems			
		同志社大学 京田辺キャンパス 香知館 KC308 会議室	Prof. Li Ping (IEEE Fellow) Department of Electronic Engineering, City University of Hong Kong	17(8)	IEEE Communications Society (COMS) Kansai Chapter
第 83 回	2014 年 9 月 9 日	テーマ: 関西空港 一医薬品輸送のオンリーワン空港と気象レーダ技術一			
		関西空港	新関西国際空港株式会社(NKIAC) 航空営業部長 小関 貴裕 氏 三菱電機特機システム(株) 工学博士 浜津 享助 氏	26(17)	IEEE Kansai LMAG 情報通信技術研究交流会 (AC・Net)
第 84 回	2014 年 11 月 29 日	テーマ: 未来を拓く産業科学のシーズ創出			
		大阪大学産業科学研究大会議室	大阪大学産業科学研究研究所 所長 八木康史教授 特任教授 金出武雄教授 副所長 吉田陽一教授 磯山悟朗教授 能木雅也准教授	9(9)	IEEE Kansai LMAG

e. Awards Committee

IEEE 本部による、"GOLD" 名称の "Young Professionals" への変更に伴い、「IEEE 関西支部 GOLD 賞」の名称を「IEEE 関西支部 Young Professionals」賞へと変更し、募集を行った。本賞では、学生会員、大学や研究所の若手研究員、企業の若手会員の 3 種類の表彰を行っている。今年度は 10 月 17 日に応募を締め切って、全体で 4 名の応募者があった。当委員会による選定の後、1 名の受賞者を 12 月 19 日の支部理事会で決定した。

また、2014 年「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、今年度も継続して SAC と合同で審査委員会を設立して行った。10 月 10 日に応募を締め切ったところ、19 名の応募者があった。当委員会による選定の後、12 月 19 日の支部理事会で 10 名の受賞者を決定した。

f. Chapter Operations Committee

現存 Chapter の活動を支援するとともに、Chapter 新設への支援を行っている。具体的には、JC COC と連携して進めている本部へのオンライン書類提出、Chapter 支援費、Section 傘下への移行支援、国際会議実施での MoU 締結手続き、ソサイエティ別 Section 所属会員数の提供、petition 作成支援等である。

g. Life Members Affinity Group

2/17 に年次総会を開催した。活動 2 年目として LMAG 活動を軌道に乗せるべく、3 回の現場講演会を技術講演会の一環として関西支部 TPC と共催した。6/27 理化学研究所計算科学研究機構、9/9 関西空港、11/29 大阪大学産業科学研究所、以上のそれぞれにおいて、LMAG が主体となった現地技術講演会を開催した。これらにより現地講演会というスタイルを定着させた。また、役員会は 2014 年度 5 回、開催した。第一回(2/17、京都テルサ)と第二回(6/11、高山サイエンスプラザ)で、2014 年の進め方とこれからの運営体制について議論した。第三回は 6/27、大阪グランフロントナレッジキャピタルにて、LMAG サロン活動の検討を開始した。そして、第四回を関西空港での現場講演会(9/9)の後に開き、来年度の新たな活動方向の検討を行った。第五回を 12/18、淀屋橋住友ビルにおいて開催し、今年の活動のまとめと来年の活動の具体化について議論した。5 月と 9 月に「Kansai-LMAG Newsletter」を発行しホームページに掲載するとともに電子メールにて案内した。

h. WIE Affinity Group

- ・ 1 月 21 日に関西支部 WIE AG 設立 petition が承認された。
- ・ 2 月 4 日に準備委員会を開催し、活動方針、役員候補について話し合った。
- ・ 2 月 16 日 IEEE Women in Engineering Initial Funding に応募し後日採択された。
- ・ 4 月 30 日に同志社大学にて第 1 回役員会 を開催し、WIE の活動方針、2014 年の活動計画について打ち合わせを行い、設立総会、キックオフシンポジウムを行うこととした。
- ・ 5 月 9 日に R10 WIE Support Fund に応募し、後日キックオフシンポジウムの開催費として R10 より支援を受けることになった。
- ・ 10 月 9 日に奈良先端科学技術大学院大学にて、第 2 回役員会兼第 1 回キックオフシンポジウム

実行委員会を開催し、キックオフシンポジウムの準備状況を確認し、今後のスケジュールを確認した。

- ・ 10月31日に奈良先端科学技術大学院大学にて、第3回役員会兼第2回キックオフシンポジウム実行委員会を開催し、キックオフシンポジウムの最終確認を行った。
- ・ 11月22日に大阪大学中之島センターにて、IEEE 関西支部 WIE AG 設立総会およびキックオフシンポジウムを開催した。参加者数は33名 (IEEE 会員 22名、非会員 11名)であった。設立総会では、役員体制、2014年活動計画の承認を行った。キックオフシンポジウムでは、3件の講演およびグループトークを行った。

講演内容:

1. IEEE Women In Engineering 紹介 -世界に羽ばたく IEEE 女性技術者-
IEEE R10/JC WIE 橋本隆子氏、IEEE JC WIE 石川佳寿子氏
2. 私のキャリアにスイッチが入った時～女性技術者のキャリア形成の一事例～
富士通研究所ものづくり技術研究所 山本里枝子氏
3. 脳・学習モデル・経済・精神疾患: 学際研究の現場から
(株)国際電気通信基礎技術研究所 脳情報通信総合研究所 田中沙織氏

グループトーク:

テーマ「科学とテクノロジーと人生を楽しむためのヒント」

- ・ 11月22日に ANA クラウンプラザホテル大阪にて、IEEE Japan Council and Kansai Section WIE Joint meeting を行い、今後の WIE 活動に関して JC WIE 役員、関西支部役員・理事、関西支部 LMAG 役員、関西支部 WIE 役員間で意見交換を行った。参加者は14名であった。



関西支部 WIE キックオフシンポジウム



JC/Kansai WIE Joint Meeting

i. Young Professionals Affinity Group

9月23日に関西支部 YP Affinity Group 設立の petition が承認された。11月25日に、MDC & SAC & YP Joint workshop を開催、YP 関係者 7 人が出席し、新役員体制の確認、今後の YP の活動方針などについて議論した。WIE や LMAG との積極的な交流を図っていく方針を立てるとともに、特に今後一年間に向けて、キックオフシンポジウムの開催と工場見学という活動計画を確認した。



YP 関係者

12. Kansai Chapter 活動

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

1月29日にIEDM2013報告会を大阪工業大学うめきたナレッジセンターにて開催し、2名の講師が同会議の参加者に対して、シリコンデバイス/プロセス関連及びパワー・化合物デバイス関連の技術情報についてご講演頂いた。その後、チャプター総会を開催した。

6月19日～20日には、国際会議“2014 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2014)”を京都駅前の龍谷大学響都ホールにて開催した(IEEE SSCS 関西チャプターとの共催)。学生や若手研究者を中心に135名の方々に参加頂き、うちEDSは5件の招待講演(Keynote: 2件, Invited: 3件)、8件の一般講演及び31件のポスター講演(シヨートプレゼンテーション付き)を実施した。また、本会議に先立って“Fundamentals of Biosensors and its Applications”と“Fundamentals of Thermoelectricity and its Application”と題して2件、バイオセンサーおよび熱電変換素子に関するチュートリアル講演会を開催し、若手エンジニアや学生の方々に多数参加頂いた。EDSからは1件のBest Paper Awardと5件のStudent Paper Awardを表彰した。

10月3日にDistinguished Lecturerを招いてのDL Meeting及び技術講演会を大阪工業大学うめきたナレッジセンターにて開催した。Distinguished Lecturerの尾辻泰一教授(東北大学電気通信研究所)には、「グラフェンを利用したプラズマモニクテラヘルツデバイス技術の研究最前線」と題して講演頂いた。また、技術講演会では関西チャプターの中村 孝氏(ローム(株)パワーエレクトロニクス研究開発部)に「SiC パワーデバイス・モジュールの開発・実用化の現状」の講演を頂いた。

11月17日には関西コロキウム電子デバイスワークショップを大阪工業大学うめきたナレッジセンターで実施した。講師には関西に職場住所を持つ企業・大学・公共機関が投稿した論文(刊行期間: 2013年4月から2014年3月)の中から特に優秀ものを11件選出して、国際レベルの研究成果を日本語および英語にて発表して頂いた。39名の参加があった。1件のIEEE EDS Kansai Chapter of the Year Awardと1件のIEEE EDS Kansai Chapter MSFK Awardを表彰した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/>

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

5月22日に、ISSCC2014報告会をIEEE SSCS Japan Chapterと共催で東京理科大学 森戸記念館で開催し、11名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。

5月26～28日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、“LSI and Systems Workshop 2014”を北九州国際会議場で開催した。参加人数は269名である。ポスター講演は37件あり、SSCSからは2件のAcademic Research Awardを表彰した。

6月19～20日に、IEEE EDS 関西チャプターとの共催で国際会議である“2014 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2014)”を龍谷大学アバンティ響都ホールにて開催した。学生や若手研究者の方々に参加頂き、5件の招待講演(Keynote: 2件,

Invited: 3件)、8件の一般講演及び31件のポスター講演(ショートプレゼンテーション付き)を実施した。SSCSからは1件の Student Paper Award を表彰した。

7月14日に、2014 Symposium on VLSI Circuits 報告会を IEEE SSCS Japan Chapter と共催で大阪・常翔学園大阪センターで開催し、11名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。出席者は38名であり、内 IEEE 会員は17名である。

8月29~30日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で、“VDEC デザイナーズフォーラム 2014”を下呂温泉 水明館で開催した。講演者は14名、参加人数は約50名である。SSCS Kansai Chapter からは学会運営支援費を拠出した。

11月14日に、International Workshop on Advanced Solid-State Circuits in Tokyoを IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京大学生産技術研究所において開催し、7名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。

11月14~15日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会と IEEE SSCS Japan Chapter, IEEE SSCS Vietnam Chapter と共催で、“The 2014 International Conference on Integrated Circuits, Design, and Verification (ICDV 2014)”を VNU University of Engineering and Technology, Hanoi で開催した。10件の招待講演、22件の一般講演と8件のポスター講演を実施した。

11月17日に、International Workshop on Advanced Solid-State Circuits in Kyotoを IEEE SSCS Japan Chapter と共催で京都工芸繊維大 60周年記念館において開催し、6名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sscs/>

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

2014年は、2件の技術講演会を実施し、その他に国際ワークショップの共催1件、研究会や講演会の協賛4件、2度の Administrative Meeting を実施した。特に2件の技術講演会は、多数の学生や一般の参加者があり大変好評だった。さらに活発な議論も行われ、多くの参加者の今後の研究等の活動にも役立つと考えられた。詳細は以下のとおりである。

- 1) 8月4-5日に淡路夢舞台国際会議場で開催された第27回回路とシステムワークショップへの協賛を行った。(参加者165名)
- 2) 8月27日、京都工芸繊維大学において最新 SOI 技術に関された国際会議 International Symposium on Leading-edge SOI Technologies を共催し、杉井 信之氏 (Low-power Electronics Association & Project)をお招きして、技術講演会『Ultralow-Voltage Design and Technology of Silicon-on-Thin-Buried-Oxide (SOTB) CMOS for Highly Energy Efficient Electronics in IoT Era』を実施した。(参加者23名)
- 3) 9月2日、初めての試みとして、Skypeによるインターネット会議として Administrative Meeting を実施した。(出席者4名)
- 4) 10月24日、神戸大学にて NEC 情報・メディアプロセッシング研究所 主席研究員の今岡仁氏をお招きして、技術講演会『高精度顔認証技術の開発と応用』を実施した。(参加者128名)

- 5) 10月24日、神戸大学にて **Administrative Meeting** を開催し、今後の活動や次期役員の人選について協議した。(出席者3名)
- 6) 11月10-12日に、群馬県伊香保ホテル天坊で開催された第57回自動制御連合講演会に協賛した。(参加者約600名)
- 7) 11月17日に、京都工芸繊維大学において開催された国際ワークショップ **International Workshop on Advanced Solid-State Circuits in Kyoto** を共催した。(参加者90名)
- 8) 11月17日に、大阪大学にて開催された Prof. Thanos Stouraitis (University of Patras, Greece)氏による講演会『**Advances in Cryptographic System Implementations**』に協賛した。(参加者10名)
- 9) 12月8-9日に関西学院大学大阪梅田キャンパスで開催された第6回コンピューショナル・インテリジェンス研究会への協賛を行った。(参加者見込50名)

以上、最新技術動向に関する技術講演会を開催するとともに、多くの国際会議やワークショップ等にも協賛することで、参加者との交流を通じて、活動のアピールと会員の獲得に努め、CASS 関西チャプタの活動をアピールすることもできた。また、役員間でメール等による連絡を密に行い、今後の計画も練っている。さらに、初めての試みとして、Skypeによるインターネット会議 (**Administrative meeting**)も実施し、時間を有効に使って様々な議題について議論できた。

なお、実施したものや今後の予定については、詳細を次の URL に掲載している。

URL <http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/cas/>

d. **APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter**

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナおよび無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および(2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動するため、1月20日に役員会を開催して本年の活動計画を策定した。

4月17日に、立命館大学にて **IEEE AP-S Kansai Chapter** 特別講演を主催し、鈴木健一郎教授(立命館大)より「ミリ波帯フェーズドアレイアンテナ(PAA)と高周波可変フィルタへのMEMS技術の展開」と題してご講演を頂いた。

8月22日に、立命館大学にて **IEEE AP-S Kansai Chapter** 次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップを主催し、東京農工大学 有馬 卓司 准教授 防衛大学校 道下 尚文 准教授より「無線通信の高度化を支えるアンテナ解析技術 —アンテナシステム設計のための FDTD 法のノウハウと具体的応用—」と題してご講演を頂いた。参加者総数は43名であった。

11月1日には **MTT-S Kansai Chapter** との合同若手技術交流会を関西学院大学において開催し、関西電機メーカー等の若手技術者に大学院生を対象とした実際の研究開発活動の体験を講演していただいた。さらに、各大学、企業からのポスター展示を行い、17件のポスター発表があり、活発な討論が行われた。参加者総数は79名であった。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/aps/>

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

4月7日に役員会を開催して本年度の活動計画を立てた。

COMS 関西として、学生や若手研究者を主な対象とした通信技術の研究情報の提供を行い、研究講演の開催ならびに学生研究発表会を実施し会員獲得への活動を行った。

7月15日には大阪工業大学うめきたナレッジセンターで、Distinguished Lecturer を招いての技術講演会(DL Meeting)を開催した。IEEE Communications Society Distinguish Lecturer である University of Trento の Fabrizio Granelli 教授に「Networking and the Smart Grid: the relevance of communications in the future of power grid」と題して講演して頂いた。

11月15日には同じく、大阪工業大学うめきたナレッジセンターで、学生研究発表会を行った。TPC を構成し各プレゼンテーションの審査を行い、優れた発表に1名に Award を贈呈した。

広報活動を活性化するため facebook

<http://www.facebook.com/IEEEComSocKansaiChapter>

を利用して COMS Kansai Chapter に関する情報公開を行なっている。活動計画や報告は以下の URL により提供している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/coms/>

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

2014 年は 2 件の技術講演会の主催を行った。具体的には次のとおりである。

2014 年 7 月 11 日(金)に、キャンパスプラザ京都に於いて、セキュリティの「見える化」と認証制度というテーマで 2 件の講演を行った。1 件目は「ソフトウェアの信頼性・セキュリティの担保と見える化」と題して、産業総合研究所の大岩氏にご講演頂いた。ソフトウェア安全性とセキュリティをどのように考え、最終製品ユーザにとっての安心につなげることができるかを、研究者の立場からご議論頂いた。2 件目は「制御システムセキュリティの認証制度」と題して、三菱電機の神余氏にご講演頂いた。IEC/ISA における国際標準(ISA/IEC62443)の制定と、制御システム製品のセキュリティ認証制度(EDSA 認証など)の立上げを含め、国内外の制御システムセキュリティ製品認証制度について紹介頂いた。講演会では、28 名の参加者を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

2014 年 9 月 5 日(金)に、キャンパスプラザ京都に於いて、「コンピュータービジョンと人工知能応用」をテーマに 2 件の講演を行った。1 件目は、「実世界で活躍するコンピュータービジョン技術」と題して、オムロンの井尻氏にご講演頂いた。コンピュータービジョンの基本技術を俯瞰し、工場への導入例など幅広い応用についてご紹介頂いた。2 件目は、「人間レベルの汎用人工知能の実現はどこまで近づいているのか」と題して、富士通研究所の山川氏にご講演頂いた。歴史的に個別の問題を解決する特化型 AI が主流であったが、近年、汎用性を追求した AI の研究が再び盛り上がりつつある中で、ディープラーニングを例題に多様な可能性の中から妥当な知識構造を獲得していく技術の重要性について将来展望も含めてご議論頂いた。講演会では、45 名の参加者を集めて、講演者と参加者での議論が活発に行われ、コンピュータービジョンを含む AI 技術の関心の高さが伺われた。

上記にあるとおり、業界で注目されている最先端技術についての講演会を主催し、関連技術者及び学生を多数集め、活動のアピールと会員獲得に務めた。

技術講演会等の詳細は下記の URL に掲載している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

g. MTTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 研究発表会(主催):第7回マイクロ波英語発表会
2014年 6月 21日(土) 京都大学 桂キャンパス(京都市)
発表者 21名, 出席者数:51名 (IEEE 会員 24名、非会員 27名)
2. 講演会(主催):電波領域へのプラズモニクスワークショップ
①演 者:村井 俊介(京都大学)
演 題:「プラズモニクアレイを利用した蛍光材料の発光制御」
②演 者:藤田 和広(富士通株式会社)
演 題:「テラヘルツ帯擬似表面プラズモンのシミュレーションの概要と実際」
③演 者:四方 潤一(日本大学)
演 題:「表面波共鳴を用いたテラヘルツ波の発生・制御」
④演 者:有馬 卓司(東京農工大学)
演 題:「マイクロ波領域における表面プラズモンとその応用について」
2014年 8月 23日(土) 大阪大学 豊中キャンパス(大阪府豊中市)
出席者数:52名 (IEEE 会員 37名、非会員 15名)
3. 講演会(主催):マイクロ波フォトニクス技術の最新動向ワークショップ
①演 者:永妻忠夫(大阪大学)
演 題:「光通信技術を用いたテラヘルツ波センシングとテラヘルツ通信」
②演 者:Afshin S. Daryoush (Drexel Univeristy)
演 題:「Future Multi-Beam Communication Systems and Challenges 40GSPS
Digital Receivers」
③演 者:Jianping Yao (University of Ottawa)
演 題:「<IEEE Microwave Distinguished Lecture> Microwave Photonics」
2014年 10月 25日(土) 同志社大学今出川校地烏丸キャンパス(京都市)
出席者数:42名 (IEEE 会員数:27名 非会員数:15名)
4. 講演会(主催):IEEE AP-S Kansai Chapter and IEEE MTT-S Kansai Chapter 合同
若手技術交流会 2014
①演 者:田中俊行(三菱電機株式会社)
演 題:「宇宙太陽光発電システム用高効率整流器の開発」
②演 者:塗壁悠治(村田製作所)

演 題:「LTE 対応スマートフォン RF フロントエンドモジュール技術紹介」
2014 年 11 月 1 日(土) 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス(兵庫県西宮市)
出席者数:確認中。

5. 講演会(主催):IEEE MTT-S Kansai Chapter Distinguished Microwave Lecturer 講演会

①演 者:Robert H. Caverly (Villanova University)

演 題:「核磁気共鳴画像法 (MRI)」

2014 年 11 月 10 日(土) 龍谷大学瀬田キャンパス (滋賀県大津市)

出席者数:確認中

6. 発表練習会(共催):APMC2014 発表練習とアドバイスの会【東京会場】

2014 年 10 月 20 日(火) 九州大学東京オフィス(東京都千代田区)

受講者:4 名, 出席者数:10 名 (IEEE 会員数:10 名 非会員数:0 名)

7. 発表練習会(共催):APMC2014 発表練習とアドバイスの会【関西会場】

2014 年 10 月 21 日(火) 京都工芸繊維大学(京都市)

受講者:5 名, 出席者数:11 名 (IEEE 会員数:11 名 非会員数:0 名)

8. 国際会議(共催):2014 Asia-Pacific Microwave Conference

2014 年 11 月 4-7 日(火) 仙台国際センター(仙台市)

出席者数:確認中

9. 国際会議(技術共催):2014 Thailand-Japan MicroWave (TJMW2014)

2014 年 11 月 26-28 日 King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang (KMITL), Bangkok, Thailand

II. 協賛

1. 研究発表会: 電子情報通信学会 マイクロ波研究会

(主催: 電子情報通信学会エレクトロサイエティ)

① 2014 年 6 月 26 日 豊橋科学技術大学(豊橋市)

② 2014 年 7 月 17, 18 日 室蘭工業大学(室蘭市)

③ 2014 年 9 月 18, 19 日 東京工業大学 大岡山キャンパス

④ 2014 年 10 月 23, 24 日 秋田県立大学本荘キャンパス(由利本荘市)

⑤ 2014 年 11 月 20, 21 日 長崎大学(長崎市)

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. 役員会

① 2014 年 6 月 21 日 京都大学桂キャンパス(京都市) 出席者数:7 名

② 2014 年 8 月 23 日 大阪大学豊中キャンパス(豊中市) 出席者数:7 名

③ 2014 年 11 月 6 日 仙台国際センター(仙台市) 出席者数:6 名

2. JC/KC/NC 合同役員会

① 2014 年 9 月 23 日 徳島大学(徳島市) 出席者数:15 名

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/mtts/>

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

Technical Meeting としては、1 月 23 日(木)に、同志社大学烏丸キャンパス志高館にて IEEE Photonics Society Kansai Chapter 特別講演を主催、裏升吾 教授(京都工芸繊維大学)をお招きして、「ボード内高密度光配線のための垂直入出力結合素子」という題目でご講演いただいた。参加者は 60 名。また、翌 24 日(金)も含む 2 日間にわたって同会場にて開催された、電子情報通信学会 OPE, LQE, PN, MWP, EST 各研究会および電気学会 EMT 研究会との光関連合同研究会にも協賛、発表件数は計 66 件(うち招待講演 8 件)、のべ参加者は 212 名と盛況であった。また、10 月 25 日(土)に、同じく同志社大学烏丸キャンパス志高館にて「マイクロ波・ミリ波フォトニクスに関するワークショップ」を主催、北山教授(阪大)から「デジタルコヒーレント Radio-over-fiber 通信システムとその直近の応用」、また Stöhr 先生(Duisburg-Essen 大)から「Microwave Photonic Technologies for Emerging Short Reach Wireless Networks」という題目でご講演いただいた。参加者は 44 名。

Administrative Meeting としては、1 月、6 月、10 月にいずれも京都で役員会を開催、新旧役員引き継ぎ、年間活動方針、ワークショップ運営について協議した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/pho/>

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

2014 年は IEEE 内外との連携により、5 件の共催講演会を開催するとともに 2 件の学生賞を実施した。

10 月 21 日には、関西大学千里山キャンパスにて技術講演会を開催し、

講師 Issa M. S. Panahi (Associate Professor, University of Texas at Dallas) より

題目 "Real-time Adaptive Signal Processing Methods for Active Control of Acoustic Noise and Enhancement of Speech; Architectures, Algorithms, and Applications" のご講演を頂いた。講演会では本技術分野に興味を持つ 33 名の参加者が集まった。

11 月 10 日～11 月 13 日にかけて V. John Mathews 教授(University of Utah)を中心とする講師による講演会を計 4 か所で開催した。講師および講演題目は次の通りである。

- 11 月 10 日／国立情報学研究所(19 階 1901-1903 会議室)、
講師: Prof. V. John Mathews (Department of Electrical and Computer Engineering, University of Utah)、
題目: Signal Processing for Health Monitoring of Aerospace Structures、
講師: Akihiko (Ken) Sugiyama (Information and Media Processing Laboratories NEC Corporation)、
題目: Multichannel Echo Cancellation: Discovery of the Uniqueness Problem and Search for Solutions、
出席者数: - 名 (集計中)、
- 11 月 11 日／理化学研究所 和光地区脳科学総合研究センター東研究棟 1F セミナー室、

講師: Prof. V. John Mathews (Department of Electrical and Computer Engineering,
University of Utah)、

題目: Restoration of Motor Skills in Patients with Disorders of the Central Nervous
System、

出席者数:- 名 (集計中)、

- 11月12日/東北大学 電子情報システム・応物系 451・453 会議室 (東北大学 青葉山キャンパス)、

講師: Prof. V. John Mathews (Department of Electrical and Computer Engineering,
University of Utah)、

題目: Signal Processing for Diagnostic Medicine、

出席者数:- 名 (集計中)、

- 11月13日/立命館大学朱雀キャンパス (〒604-8415 京都市中京区西ノ京栞尾町 1-7)、

講師: Prof. V. John Mathews (Department of Electrical and Computer Engineering,
University of Utah)、

題目: Signal Processing for Health Monitoring of Aerospace Structures、

出席者数:- 名 (集計中)。

学生賞に関する活動として、IEEE SPS Japan Chapter および IEEE SPS Sendai Chapter
との連名により、IEEE SPS Japan Student Journal Paper Award および IEEE SPS Japan
Student Conference Paper Award を実施し、受賞者各1名を2015年2月に表彰する予定。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

j. CES (Consumer Electronics Society) Kansai Chapter

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 国際学会(主催)

内容: 国際会議 GCCE (Global Conference on Consumer Electronics) 2014 を開催した。
今回は Award Session, Student Award Session, 3つの Poster Session に加え、新たに
Demo を含む35セッションが開催され、発表論文は約 280 件。

また、10/8 には WIE に関するシンポジウム、および韓国 IEIE 会長、映像情報メディア学会
次期会長をお招きしたシンポジウムを開催した。

2014年10月7日-10月10日 幕張メッセ・国際会議場

出席者数: 400名以上

2. 技術講演会(主催)

第1回 2014年2月21日 キャンパスプラザ京都

第2回 2014年3月22日 埼玉大学 東京ステーションカレッジ

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. Chapter 役員会

チャプタ再編の経緯と現状を報告し、今後の進め方について確認した。また、第3回 GCCE の成功に続き、来年度に向けて投稿論文数および参加者を更に増やすための方策について議論を実施した。国内の他学会(映像情報メディア学会コンSUMERエレクトロニクス研究会、画像電子学会スマートディスプレイ研究会、映像情報メディア学会CONSUMERエレクトロニクス研究会等)との連携を深め協賛していただけるように活動を進めることとした。

年月日/会場:2014年10月8日/幕張メッセ・国際会議場 出席者数: 5名

2. 次回 Chapter 役員会(予定)

来年度活動計画策定(予定)

於:キャンパスプラザ京都

Chapter 支援費利用事業

1. 若手論文賞

若手研究者の支援活動として国際会議 GCCE(Global Conference on Consumer Electrics)にて発表した中から選考する若手論文賞 “IEEE CES West Japan Chapter Young Researcher Award” を設定。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

役員会

1. 第1回役員会 (2014/3/5)
2. 第2回役員会 (2014/5/22)
2. 第3回役員会 (2014/9/1)

共催行事

1. 講演会

講演題目:ランダム摂動による多チャンネル制御システムの解析

講師: Getachew K. Befekadu 博士 (ノートルダム大学電気工学科) (2014/7/7)

2. Mini-Workshop on Dependable Energy Management (2014/9/1)

3. 講演会

講演題目: A Kushner-Stratonovich stochastic method for non-linear dynamical systems (非線形動的システムに対するクスナー・ストラトノビッチ確率手法)

講師: Shambhu N. Sharma 博士 (National Institute of Technology, Surat, India)(2014/11/4)

協賛事業

1. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会 若手研究発表会 (2014/1/17)

2. 計測自動制御学会 第1回制御部門マルチシンポジウム (2014/3/4-7)
3. ISCIE・SICE チュートリアル講座「自動車運転支援技術の基礎から最新動向まで」
(2014/7/22)
4. The 46th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (2014/11/1-2)
5. 第57回自動制御連合講演会 (2014/11/10-12)

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/css/>

1. IES (Industrial Electronics Society) All Japan Joint Chapter

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 電気学会 半導体電力変換・モータドライブ合同研究会 (共催)
年月日/会場:2014年1月24, 25日 神戸大学 六甲台第2キャンパス
出席者数:137名
2. パワーエレクトロニクス学会定例研究会 (共催)
年月日/会場:2014年4月12日 同志社大学 今出川キャンパス
出席者数:71名
3. パワーエレクトロニクス学会定例研究会 (共催)
年月日/会場:2014年6月14日 岡山大学 津島北キャンパス
発表件数:5件
出席者数:45名
4. パワーエレクトロニクス学会定例研究会 (共催)
年月日/会場:2014年8月2日 千葉工業大学 津田沼キャンパス
発表件数:7件
出席者数:52名
5. パワーエレクトロニクス学会定例研究会 (共催)
年月日/会場:2014年10月18日 神戸大学 深江キャンパス
発表件数:8件
出席者数:44名

II. 協賛

1. 基礎からわかるスマートエネルギーシステム技術講座
年月日/会場:2014年3月11日~12日 大阪工業大学うめきたナレッジセンター
出席者数:110名
2. スマートエネルギーシステムの最新動向と開発・検証 (Techno Frontier 2014)
(主催:日本能率協会, スマートエナジー研究所)
年月日/会場:2014年7月24日 東京ビッグサイト、東京

発表件数: 9 件

出席者数: 110 名

3. 分散型エネルギーシステムの普及に向けて(Smart Energy Japan 2014)

(主催: ICS コンベンションデザイン, スマートエナジー研究所)

年月日/会場: 2014 年 7 月 30 日 グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター、大阪

発表件数: 7 件

出席者数: 80 名

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. 役員会

年月日/会場: 2014 年 4 月 12 日 同志社大学 今出川キャンパス

出席者数: 4 名

Chapter 支援費利用事業

1. IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter Young Engineer Award (2014 年 4 月 12 日実施)

IEEE-IES Japan Chapter が共催して 2013 年度に開催された第 197 回から第 201 回までのパワーエレクトロニクス学会定例研究会で発表された論文の中から、35 歳以下の若手によるもの 1 件の優秀な発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter Young Engineer Award を授与した。

URL <http://www.ieeeiesjapanchapter.blogspot.jp/>

V. 関西支部会員数

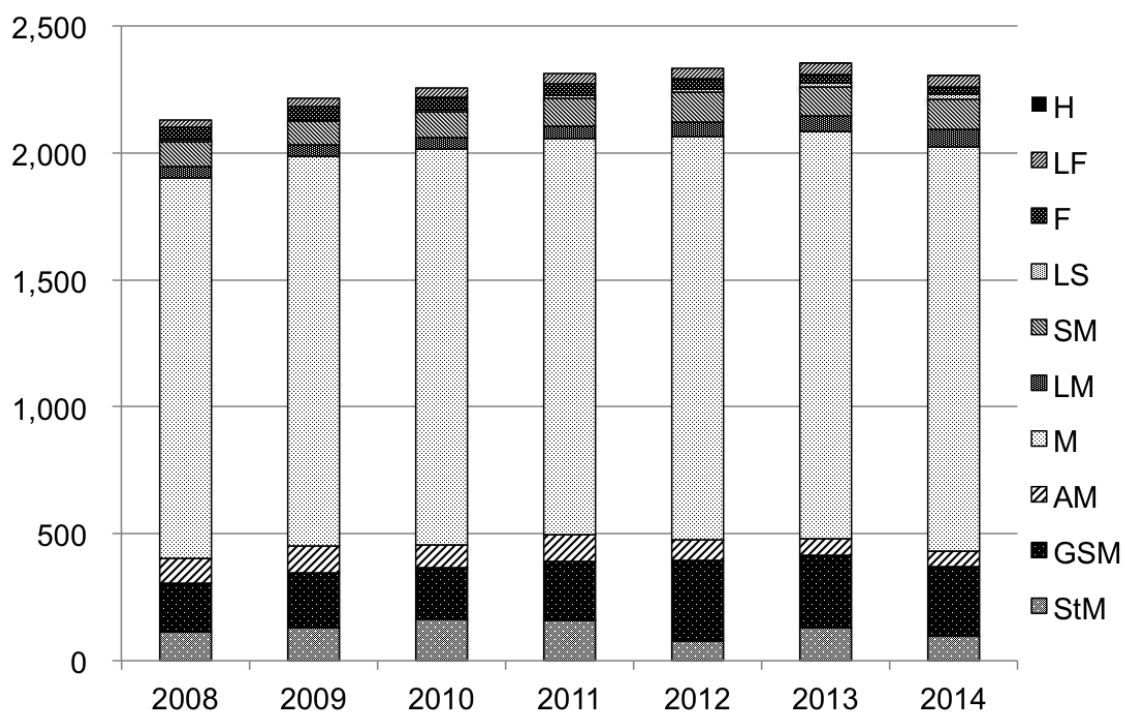
1. グレード別会員数

2015/1/28 現在

グレード	Grade Code	会員数
Honorary Member	H	1
Life Fellow	LF	46
Fellow	F	31
Life Senior Member	LS	20
Senior Member	SM	116
Pending Senior Member	PS	0
Life Member	LM	69
Member	M	1,594
Pending Member	PM	0
Life Associate	LA	0
Associate	AM	60
Graduate Student Member	GSM	271
Student Member	StM	99
Total		2,307

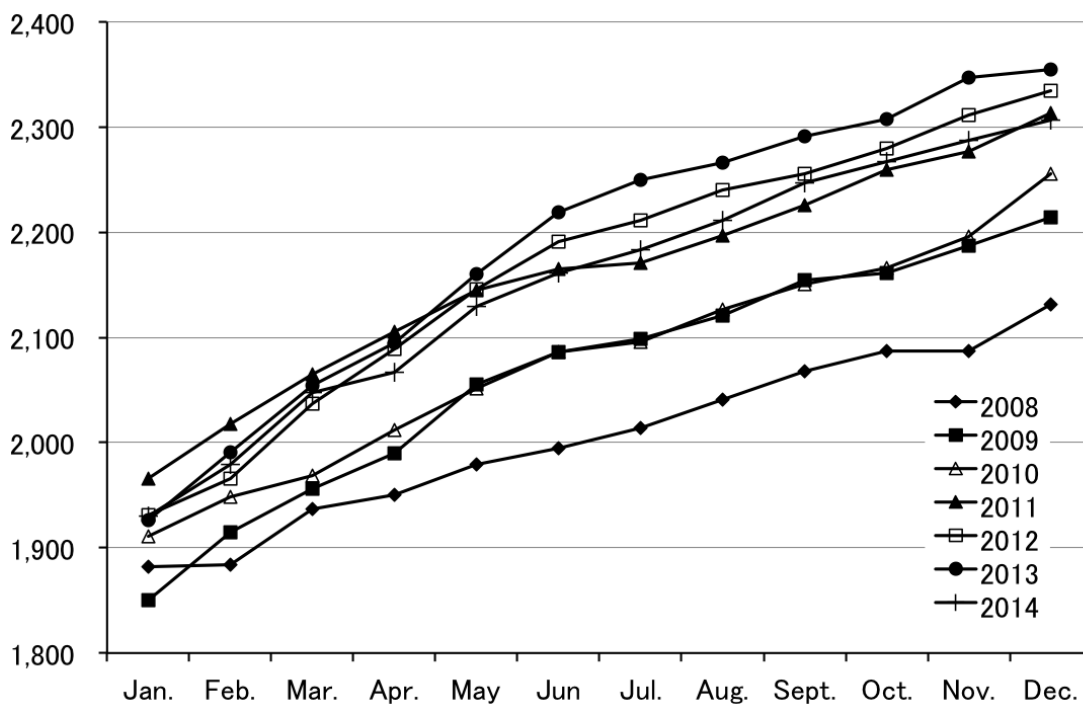
上記集計では、Active 会員のみをカウントし、かつ、他セクションへの移籍者等は含まない。

・グレード毎の会員数推移



上記集計は各年 12 月末の会員数を元に集計したものである。

・月ごとの会員数推移



2. ソサイエティ別会員数

2015/1/28 現在

ソサイエティ	Code	会員数
Signal Processing	SP 001	154
Broadcast Technology	BT 002	4
Antennas and Propagation	AP 003	67
Circuits and Systems	CAS 004	117
Nuclear and Plasma Science	NPS 005	30
Vehicular Technology	VT 006	39
Reliability	RL 007	9
Consumer Electronics	CE 008	31
Instrumentation and Measurement	IM 009	14
Aerospace and Electronic System	AES 010	16
Computational Intelligence	CIS 011	85
Information Theory	IT 012	48
Industrial Electronics	IE 013	48
Technology and Engineering Management	TEM 014	12
Electron Devices	ED 015	191
Computer	C 016	400
Microwave Theory and Techniques	MTT 017	155
Engineering in Medicine and Biology	EMB 018	146
Communications	COM 019	222
Ultrasonics, Ferroelectronics and Frequency Control	UFFC 020	54
Components, Packaging and Manufacturing Technology	CPMT 021	27
Oceanic Engineering	OE 022	20
Control Systems	CS 023	94
Robotics and Automation	RA 024	151
Education	E 025	14
Professional Communication	PC 026	1
Electromagnetic Compatibility	EMC 027	22
System, Man and Cybernetics	SMC 028	94
Geoscience and Remote Sensing	GRS 029	13
Social Implications of Technology	SIT 030	3
Power & Energy	PE 031	49
Dielectrics and Electrical Insulation	DEI 032	14

Magnetics	MAG 033	38
Industry Applications	IA 034	43
Power Electronics	PEL 035	59
Photonics	PHO 036	89
Solid-State Circuits	SSC 037	141
Intelligent Transportation Systems	ITSS 038	16
Product Safety Engineering	PSE 043	2
Total		2,732

VI. 2015 年 活動計画

1. 総会

2015 年 2 月 10 日 (火) 15:00~17:30 の予定で、定例総会を実施する。

2. 理事会

第 1 回理事会 1 月 16 日 キャンパスプラザ京都

・ 2015 年活動計画 ・ 2015 年各 Committee の活動計画 ・ 2015 年予算 (案)

第 2 回理事会 2 月 10 日 キャンパスプラザ京都

・ 2015 年総会について

2015 年中に、合計 5 回の理事会を開催する予定である。

3. 技術講演会

Technical Program Committee の企画により、年間 5 回以上の講演会を実施する。

4. IEEE マイルストーン

関西支部から推薦された IEEE マイルストーンの認定式典を実施する。

5. 関西支部 Young Professionals 賞

2014 年に引き続き、Award 受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

6. 関西支部学生研究奨励賞

2014 年に引き続き、学生研究奨励賞受賞候補者を公募し、該当者を表彰する。

7. 関西支部メダル

2014 年に引き続き、関西支部内の新 Senior Member に関西支部メダルを授与する。

8. 協賛会議 (2015 年 1 月 31 日現在予定分、受付順)

(1) The 4th International Conference on Informatics, Electronics & Vision (ICIEV)

主催 : Center for Natural Science & Engineering Research

日時 : 2015 年 6 月 15 日 (月) ~17 日 (水)

場所 : 北九州国際会議場

9. Region 10 Meeting

2015 年 3 月 7 日 (土) ~ 8 日 (日) の日程でバングラデシュのダッカで開催される Region 10 Meeting には、関西支部より例年通り参加し、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努める。

10. 各 Committee 活動計画

a. Membership Development Committee

2015 年は、主に MDC, 及び SAC に参加している委員の組織を通して、IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズに行わせるとともに、正会員からシニアへの移行を更に押し進める。また、SAC と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れる。

- ・ 2014 年にシニアメンバーへのアップグレードを推進することを活動の中心としてアップグレードのためのスキームを構築した。今年はそのスキームを用いて MDC, 及び SAC の委員が所属している組織を中心としてシニアへのアップグレードを促す。
- ・ 学会や研究会で IEEE の宣伝を行うために、ポスター、パンフレット、及びボールペン等を 300 セット程度入手し、MDC, 及び SAC の委員に配布する。
- ・ 各委員の組織における会員状況を定期的に配布し、会員数増加のための資料とする。
- ・ 学生の卒業時、及び 6 月に renew を促すためのメールを、メーリングリストを通して全会員に対して送付する。
- ・ 会員になるための手続き、及び送金について日本国内でも、より簡単に行えるような仕組みにするための検討を行っていく。
- ・ MDC & SAC に委員を出していない、会員数が多い組織に声をかけ、新たに委員を増やすことで会員数の増加を狙う。

b. Nominations Committee

2014 年活動と同様に、MDC と共同して Senior Member だけではなく、正員、学生員の拡大をも図る。2016 年 Fellow Nomination に向けて Fellow 候補者をできるだけ多く推薦する。推薦手順は 2014 年活動と同一の予定。Senior Member に対し Fellow 制度への関心の醸成を行う。

c. Student Activities Committee

(1) Student Branch(SB)の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、SB の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学各 Branch からの支援で、神戸大学、関西学院大学等を対象に SB の設立を目指す。

(2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 7 大学 SB の協力により、SB が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 7 大学 SB を中心に、交流会を引き続き開催し、SB 間の交流を深める。さらに、SB Chair ミーティングを開催し、活動の活発化を促すと同時に、SB 間の協力体制を

強化することを目指す。また、LMAG、YP、WIE の各 AG と協力してさまざまなイベントを実施する。

(3) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した IEEE 関西支部学生研究奨励賞を（AC と共同する形で）継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。また、受賞者が受賞内容について講演する機会を設けて、更なる学生会員の活動の活性化を目指す。

(4) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

d. Technical Program Committee

2014 年と同様、講演会の開催を主たる活動とする。2015 年も 5 回以上の企画・開催を目指す。従来から継続している、大阪・京都・神戸地区での講演会の開催、会員からの講演会の提案受付に加え、他団体との共催などにも積極的に取り組む。

特に特定の Chapter に属さないような横断的/学際的分野、技術の方向性、イノベーション、グローバル化といった内容の講演会も積極的に開催する。

e. Awards Committee

2014 年に引き続き、若手会員の増強施策としての「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」の募集・選定作業、ならびに学生会員の増強施策としての「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」募集のより一層の活性化と選定作業を継続して行う。

また、中長期的視野で学生会員や若手会員のさらなる増強をめざして、予算措置を視野に入れながら新企画について検討を行う。

f. Chapter Operations Committee

関西支部内の Chapter で活動状況について横断的に情報共有を行い、各 Chapter の活動をさらに活性化させる。具体的には、Japan Council Chapter Operation Committee と連携して、各 Chapter 活動報告による情報共有、Distinguished Lecturer 制度の説明、Japan Council の支部 Chapter 支援費の説明などを行う。さらに、IEEE 本部へ行う報告や Chapter 維持条件の説明を通して、定常活動の維持について各 Chapter に再確認する。また、これまでに引き続き関西支部での Chapter を支援するため、新設に必要な情報の提供、既存 Chapter との情報交換などを行う。他 Section との合同 Chapter 設立についても積極的に推進する。

g. Life Members Affinity Group

2015 年は年間活動 3 年目として新体制のもとで活動をより活発化させる。2 月に年次総会を開催する。そして、2014 年同様に関西支部 TPC、WIE などと連携して数回の講演会（現地講演会も含む）を開催する。同時に YP や SB との交流を活発化させる。また、「Kansai-LMAG Newsletter」を発行しホームページに掲載するとともに電子メールにて

案内する。

h. WIE Affinity Group

- WIE 活動に賛同するメンバーを募り、運営体制を強化する。
- 女性研究者・技術者を応援するためのシンポジウムを開催し、年1回のシンポジウム開催が軌道に乗るように運営体制を整備する。
- Student Branch, YPs, LMAG, JC WIE, 他学会の女性支援関連活動などと連携しながら、関西での WIE 活動を推進する。

i. YP Affinity Group

2015 年は、IEEE Kansai section YPAG の立ち上がりの年であるため、メンバー同士で連携し、それぞれが所属している組織を中心として、YP 活動の利点を広く周知する。また、キックオフイベント等を行い若手研究者、及び技術者間の交流を促進する。更に YP の活動を通して IEEE 新規会員の増加にも力を入れる。

- (1) 2015 年前半にキックオフシンポジウムを開催する。キックオフシンポジウムでは講演会や交流会を行い IEEE Kansai YP について広く知ってもらい、また若手研究者、及び技術者間の交流を図る。
- (2) 2015 年後半には関西圏内にある工場見学を企画する。参加差を多く募り、関西圏内の企業についての知識を深めるとともに、企業と若手研究者、及び技術者間の交流を促進する。
- (3) 受賞者が出せる様なイベントを企画する。
- (4) (1)、(2)とは別に異分野の若手研究者、及び技術者を集めて、気軽に話せるような交流会を企画する。
- (5) YP のイベントに参加した会員に声をかけ、新たに IEEE 会員を増やすことで IEEE Kansai の活性化を狙う。

11. Kansai Chapter 活動計画

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

2015 年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開する。特に若手研究者を主な対象とした学会や講演会の開催を通じて、質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。具体的には以下の通り計画している。

2 月初旬には、IEDM2014 報告会を開催し、数名の講師が同会議の参加者にシリコンデバイス/プロセス関連および化合物デバイス、モデリング・信頼性関連の技術情報についてご講演頂く。同日、EDS 関西チャプター総会を開催予定である。

6 月には、国際会議である“2015 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2015)”を龍谷大学アバンティ響都ホールにて開催を予定している。招待講演 (Keynote および Invited)、一般講演およびポスター講演 (ショートプレゼンテーション付き) を実施する。学生や若手研究者を中心に参加頂き、会員の活発な技術交流と教育の場を提供する。先進性に優れていると判断された論文の著者に Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。また、本会議に先立って、2 件のチュートリアル講演会を開催する計画である。

10 月には Distinguished Lecturer を招いての技術講演会 (DL Meeting) および技術講演会を開催する予定である。11 月には技術講演会としてはすでに定例となった関西コロキウム電子デバイスワークショップを開催し、講師には国際レベルの研究成果を日本語にて発表して頂く予定である。先進性に優れていると判断された論文の著者に Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

2015 年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。3 月頃に技術講演会を開催し、国内外より著名な VLSI 設計関連の技術者を招く予定である。さらに、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛するとともに、協賛金と Award を出し、会員獲得に努める計画である。

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

2015 年も 2014 年と同様に、技術講演会を主催・共催として企画・実行することを中心に活動し、学生や若手研究者・技術者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することも検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを共催、あるいは協賛し、学会活動に貢献するとともに会員獲得に努める計画である。

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成

を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および (2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動し、5月にIEEE AP-S Kansai Chapter 特別講演と、8月に次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップを主催し、12月にMTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催することを予定している。

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

関西圏における通信技術に関わる技術者との交流をはかり、産業界とのつながりをもちつつ活性化を行うことを目的とする。加えて、通信技術に関わる研究者に議論と交流の場を提供し、会員数増加を目標に活動を行う。7月に講演者を招待し、IEEE COMS Kansai Chapter 技術講演会を主催する。10月に大学院生や学部学生を対象としたIEEE COMS Kansai International Student Workshop を開催することを予定している。また、他の研究講演会への積極的な共催を図り、周知活動を行うことで参加数増加を促し会員獲得を目指す。

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

2015年も技術講演会を中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。

一方、著名な国外研究者が集まる学会の開催に合わせた講演会について、2014年では実現できなかったが、2015年は開催していきたい。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める計画である。

g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

2015年も策定したミッションに基づいた技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動を行うとともに、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催／協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。さらに、新しい計画として毎年行われる国際会議IMFEDKの共催を検討し、早ければ2015年に実現する予定である。また、JapanおよびNagoya ChapterとともにFellowおよびSenior Memberへの昇格候補者支援を引き続き行う。また、2014年運用し始めた電磁波関連分野の学生と電磁波技術者を求めている企業の間を橋渡しする「マイクロ波 出会いの広場」をより効果的な運用に推進するとともに、この橋渡しを就職活動だけでなく学生のインターンシップなどにも展開する計画である。

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

2015年も、技術講演会の開催を中心に活動を展開する。1月29日には、例年通り電子情報通信学会のLQE/OPE/EMT/EST/MWP/PN合同研究会(阪大)と併催の形で、川上教授(京大)による「窒化物半導体の光物性解明と制御 ～波長フロンティア開拓に向けて～」と題した特別招待講演企画を主催するほか、年間を通じてもう1~2件の技術講演会やワークショップを企画する予定である。

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

2015 年も講演会の開催を中心とする活動を展開し、会員の学識、および知見の向上を図る。昨年と同様、IEEE SPS Japan Chapter、Sendai Chapter と連名で 2 件の学生賞を実施するとともに、学生が積極的に行事に参加するよう促し、新しい会員の獲得に努める。SPS は、対象が基礎から応用まで広範囲に及び、特に基礎部門については、異分野との交流により成果を上げられる話題も少なくないことから、これまで以上に他の学会や研究会との積極的な連携を図り、共催、協賛での行事開催に取り組む。

j. CES (Consumer Electronics Society) West Japan Joint Chapter

2014 年に引き続き、GCCE2015 を成功に導くべく、準備する。また、GCCE2015 にて Paper Award、Student Award および Demo Award 等の表彰を通じて新規会員の獲得に努めるとともに Senior Member Elevation Event を開催し、更なる昇格を支援する予定である。また、WIE (Women In Engineering) の Chair に湘南工科大学・野中講師が就任されており、連携して GCCE2015 の基調講演等を行う予定である。

また、長谷前 Chair が国際会議 ICCE (International Conference on Consumer Electronics) の General Chair に就任されており、ICCE へのサポートも行う。

また、1 月 23 日に海峡メッセ下関において CE 研究会を開催し、Consumer Electronics 分野の関連研究者間での交流を図るとともに活発な議論を行う予定である。

CES は、対象が民生機器およびその応用と広範囲に及ぶため、他学会や研究会との積極的な連携を図り、行事に取り組む予定である。

k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

1. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会 若手研究発表会 (2015/1/16)
2. 計測自動制御学会 第 2 回制御部門マルチシンポジウム (2015/3/4-7)
3. ISCIE・SICE チュートリアル講座
4. The 47th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications
5. 第 58 回自動制御連合講演会

l. IES (Industrial Electronics Society) All Japan Joint Chapter

パワーエレクトロニクス学会と共催で、4 月、6 月、8 月、10 月、12 月に定例研究会の開催が予定されている。

また、例年通り以下の表彰を行う計画である。

1. 2015 IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter Young Engineer Award
IEEE-IES Japan Chapter が毎回共催しているパワーエレクトロニクス学会定例研究会 (12 月の研究会は対象から除外する) の満 35 歳以下 (ただし発表時点において) の最優秀論文 1 件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter Young Engineer Award を授与する。
2. 2015 IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞

IEEE-IES Japan Chapter が共催して 12 月に開催されるパワーエレクトロニクス学会定例研究会では学生・若手技術者によりポスター形式で 30 件程度の発表会が行われている。その中の優秀発表 2 件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表表彰を授与する。

VII. 2014 年 会計報告

収入の部

(単位：円)

	予算案@100 円/\$	実績	
◆IEEE Entity 間勘定	4,663,544	5,659,527	
・Section Rebate (IEEE 本部より)	1,255,150	1,411,895	\$13,299.69 @ 106.16 円/\$
・Section Assessment 2014 前期(同上)	3,186,203	3,777,542	\$37,162.25 @ 101.65 円/\$
・Section Assessment 2014 後期(同上)	117,191	123,426	\$1,049.37 @ 117.62 円/\$
・Sections Congress 参加支援費	75,000	241,967	
・LMAG 支援費	30,000	31,625	
・WIE 支援費	0	20,562	
・YP 支援費	0	52,510	
◆その他	618,942	2,010,678	
・Section 支援金 (GOLD Award メダル代)	22,942	22,942	JC より(2013 年 11 月申請分) (2 個)
・Section 支援金 (学生研究奨励賞代)	176,000	176,000	JC より(2013 年 11 月申請分) (8 名)
・Section 支援金 (関西支部メダル代補助)	0	0	
・Section 支援金 (WIE)	0	0	
・Section 支援金 (Student Branch 支援費)	50,000	0	
・Section 支援金 (Milestone 経費)	240,000	50,000	
・Milestone Plaques 費	0	1,501,498	
・懇親会費徴収	130,000	260,000	総会懇親会
・利息	0	238	
◆2013 年からの繰越金	1,724,857	1,724,857	
合 計	7,007,343	9,395,062	

Rebate 内訳 { \$2,000 + \$4 × (Fellow, Senior 会員数 = 208) + \$3 × (Member, Associate, Student 会員数 = 2,152) + \$1.5 × (Affiliate 会員数 = 179) + \$200 × (Chapter 数 = 11) } × 1.10 + \$375 (Chapter Bonus: EDS, SSCS, CASS, MTTs, CSS) + \$200 (Section Bonus)

支出の部

(単位：円)

	予算案	実績	
◆IEEE Entity 間勘定	3,579,894	4,170,365	
・Japan Council 拠出金	3,300,394	3,897,536	3,775,826 + 121,710
・Chapter Rebate	279,500	272,829	(\$220 × 11 + \$75 × 2) = \$2,575
◆会合・AWARD 費	1,818,942	3,115,284	
・総会費	250,000	373,128	資料代、懇親会費など
・講演会	90,000	10,000	1 名分
・理事会費	200,000	347,620	会場費、飲食代 5 回 + 1 回

・Committee 会合費	250,000	104,695	MDC/SAC 1 回、SB 1 回
・GOLD Award 費	22,942	22,942	メダル代(2 人)
・学生研究奨励費	176,000	160,000	賞金(8 人)
・支部メダル費	0	0	
・Student Branch 支援費	60,000	0	
・WIE 支援費	0	108,132	
・LMAG 支援費	30,000	57,500	
・Sections Congress 参加費	500,000	347,009	旅費、宿泊費 (アムステルダム)
・Milestone 経費	240,000	71,680	2 件
・Milestone Plaques 費	0	1,512,578	
◆事務経費	42,000	14,860	
・外部監査費	0	0	
・事務用品費	2,000	420	ファイル等
・旅費	20,000	14,440	学生研究奨励賞交通費補助
・通信費	20,000	0	郵送費、宅急便等
◆雑費	25,000	27,913	為替手数料, 振込手数料など
◆2015 年への繰越	1,541,507	2,066,640	
合 計	7,007,343	9,395,062	

VIII. 2015 年 予算 (案)

収入の部

(単位：円)

◆IEEE Entity 間勘定	5,673,288	
・Section Rebate (IEEE 本部より)	1,330,010	2015/1 月会員数を元に計算
・Section Assessment 2015 前期(同上)	4,087,847	2014 実績\$を元に換算
・Section Assessment 2015 後期(同上)	115,431	2014 実績\$を元に換算
・LMAG 支援費	30,000	
・WIE 支援費	80,000	\$300 (IEEE WIE), \$500 (IEEE R10 WIE)
・YP 支援費	30,000	
◆その他	1,447,782	
・Section 支援金 (YP Award メダル代)	17,542	JC より(2014 年 11 月申請分) (1 個)
・Section 支援金 (学生研究奨励賞代)	220,000	JC より(2014 年 11 月申請分)(10 名)
・Section 支援金 (関西支部メダル代補助)	180,240	JC より(2014 年 11 月申請分)(20 個)
・Section 支援金 (WIE)	50,000	
・Section 支援金 (Student Branch 支援費)	100,000	
・Section 支援金 (Milestone 経費)	50,000	

・Milestone Plaque 費	700,000	
・懇親会費徴収	130,000	総会懇親会(5,000 円×26 名想定)
◆2014 年からの繰越金	2,066,640	
合 計	9,187,710	

110 円/\$として計算

Rebate 内訳{ \$2,000+\$4×(Fellow, Senior 会員数=214)+ \$3×(Member, Associate, Student 会員数=2,085)+\$1.5×(Affiliate 会員数=140)+\$200×(Chapter 数=12)}×1.10 + \$375(Chapter Bonus: SSCS,MTTS)+\$200(Section Bonus)※会員数は、2015 年 1 月 14 日現在

支出の部

(単位：円)

◆IEEE Entity 間勘定	4,457,278	
・Japan Council 拠出金	4,200,278	上記入金-1500 円×2
・Chapter Rebate	257,000	(\$220×11+\$75×5)=\$2,575
◆会合・AWARD 費	2,307,782	
・総会費	250,000	資料代、懇親会費など
・講演会	50,000	5 名分
・理事会費	200,000	会場代、飲食代 5 回
・Committee 会合費	250,000	MDC/SAC2 回、SB 等
・YP Award 費	17,542	メダル代(1 人)
・学生研究奨励費	220,000	賞金、賞状代(10 人)
・支部メダル費	180,240	メダル代(20 個)
・Student Branch 支援費	100,000	立命館大 EPC
・LMAG 支援費	30,000	
・WIE 支援費	130,000	
・YP 支援費	130,000	
・Milestone 経費	50,000	1 件
・Milestone Plaque 費	700,000	1 件
◆事務経費	42,000	
・外部監査費	0	外部監査不要
・事務用品費	2,000	ファイル等
・旅費	20,000	学生研究奨励賞交通費補助
・通信費	20,000	郵送費、宅急便等
◆雑費	25,000	為替手数料, 振込手数料など
◆2016 年への繰越	2,355,650	
合 計	9,187,710	

110 円/\$として計算

IX. 関西支部 BYLAWS の修正

【修正箇所】

ARTICLE IV --- Management

Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

Standing Committee Chairs,

representatives of Chapters,

representatives of Affinity Groups, ← 追加

such other members appointed by the Section Executive Committee,

and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

【参考】

Member and Geographic Activities (MGA) Operations Manual

http://www.ieee.org/societies_communities/geo_activities/operations_manual/index.html

Section 9.0 - GEOGRAPHIC ORGANIZATIONAL UNITS

D. Section Management

1. The Section affairs shall be managed by an Executive Committee consisting of the elected officers. The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed. Chapter and Affinity Group Chairs, as elected by their membership, are considered “elected” official, as is the Past Section Chair.

2. **All Chapters and Affinity Groups in the Section shall have voting representation either individually or collectively on the Section Executive Committee,** and the Subsection Chairs shall be ex-officio members with voting power.

X. 受賞者

IEEE 関西支部 Young Professionals 賞受賞者 (1名)

栗林 稔 (神戸大学)

IEEE 関西支部学生研究奨励賞受賞者 (10名)

有泉 亮 (京都大学)
栗野 皓光 (京都大学)
飯塚 翔一 (大阪大学)
池田 圭 (大阪大学)
今川 隆司 (京都大学)
松本 怜典 (大阪大学)
新谷 道広 (京都大学)
高道 慎之介 (奈良先端科学技術大学院大学)
谷口 真人 (京都大学)
劉 載勳 (大阪大学)

IEEE 関西支部 メダル受賞者 (15名)

日高 秀人 (ルネサス エレクトロニクス)
廣田 敦志 (明石工業高等専門学校)
堀 貴明 (日本電信電話)
候 亜飛 (奈良先端科学技術大学院大学)
小橋 昌司 (兵庫県立大学)
小林 正明 (元 三菱電機)
熊木 武志 (立命館大学)
楠本 真二 (大阪大学)
村井 康二 (神戸大学)
永原 正章 (京都大学)
小倉 武 (立命館大学)
坂本 直史 (ルネサス ソリューション)
須田 淳 (京都大学)
谷口 一徹 (立命館大学)
山田 誠 (大阪府立大学)

IEEE 関西支部 新 Fellow (2名)

木本 恒暢 (京都大学)
永妻 忠夫 (大阪大学)

(各アルファベット順、敬称略)

XI. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Member and Geographic Activities (MGA) Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

ARTICLE I --- Name and Territory

Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by the MGA Board, includes the following: Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN. (The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive)

ARTICLE II --- Officers

Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary and Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

ARTICLE III --- Standing Committee

Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the

Section Chair.

Section3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee Chairs'.

Section4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

ARTICLE IV --- Management

Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

Standing Committee Chairs,
representatives of Chapters,
representatives of Affinity Groups,
such other members appointed by the Section Executive Committee,
and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of three members of the Section Executive Committee.

Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers

Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section, shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31
Hold election:	by November 30

Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

ARTICLE VI --- Business Meeting

Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

ARTICLE VII --- Finances

Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.

ARTICLE VIII --- Amendments

Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, Policies, and the MGA Operations Manual.

(memo)

2015 年 IEEE 関西支部連絡先
〒632-8567 奈良県天理市櫛本町 2613-1
シャープ株式会社
研究開発本部 総合技術企画室 内
IEEE 関西支部事務局
e-mail: sec-kansai@ieee-jp.org
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/english/>